

<原著> 第47回 日本赤十字社医学会総会 優秀演題

## 一般消耗品のSPD運用の取り組みによるチーム医療への貢献

仙台赤十字病院 事務部<sup>1)</sup> 看護部<sup>2)</sup>

上妻 功治<sup>1)</sup> 菊池真紀子<sup>2)</sup> 加藤 千恵<sup>2)</sup>

The contribution to team approach to health care by the SPD use of office equipment and supplies

Koji KAMITSUMA<sup>1)</sup>, Makiko KIKUCHI<sup>2)</sup>, Chie KATO<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> Secretariate, <sup>2)</sup> Department of Nursing, Japanese Red Cross Sendai Hospital

Key words: チーム医療、SPD、一般消耗品

### 【はじめに】

平成22年3月に厚生労働省から発出された「チーム医療の推進」に関する報告のなかで、「チーム医療とは、医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供することと一般的に理解されている」と述べられている。チーム医療がもたらす具体的な効果として、①医療・生活の質の向上、②医療の効率性の向上による医療従事者の負担の軽減、③医療の標準化・医療安全の向上等が期待されている。これを受け仙台赤十字病院では、医療関係職（看護師）と事務職員が互いに協働・連携し、質の高い医療の実現と、効率的な業務運営を目指した一般消耗品のSupply Processing and Distribution（以下SPDとする）運用等の取り組みを行ったので報告する。なお、ここでいう一般消耗品は、診療材料及び印刷物を除く事務用品、生活雑貨等をいう。

### 【方法及び経過】

当院では、診療材料全般の物品管理業務をSPD業者に委託している。一般消耗品の物品管理は、それぞれの部署において週に一度、定期物品請求及び収納業務を看護師及び看護助手が行っており、在庫チェック等に時間を費やし

ている状況であった。このことに対してチーム医療の視点から事務部門がその役割を担い、より効率的な物品管理業務を行うことを目的とし、以下の3つの方法を導入した。

一つ目は、一般消耗品のSPD運用である。一般消耗品に関しては、これまでSPD業者への業務委託が見合わせられてきたが、時代の変化と病院のニーズによりSPD業者の応需が叶い業者委託が可能となった。はじめに運用開始目標の3ヶ月前から準備を行った。過去の定期請求の物品の中で日々よく使われる34品目をリストアップし、これらを少しでも安価にするためノーブランド商品などを検索し、導入の検討を行った。SPD業者との交渉の中で、問題となったのが一般消耗品の中の消しゴム、ボールペン、ホチキス針などの分割数である。SPD業者は、1ダースないし1ケースでの定数配置を要望したが、病院側は最小単位の分割数で効率よく定数配置をすることを求めていたため、交渉し最小単位の分割数で定数を設定した。定数は3日分の想定で設定し、週3回の配送とした。

二つ目は、印刷物等の物品カード運用である。当院では、現在も紙カルテを使用しているため、印刷物に関しては院内の倉庫で在庫管理し、払い出しを行っている。印刷物は、SPD業者の管理が困難な状況であるため、院内独自の物品カードを作成し物品請求の効率化を図った。は

じめに各部署の定数を設定した。物品カードには、部署名、商品名、数量、倉庫の保管場所を記入し印刷物と一緒に各部署に配置した。運用方法は、一般消耗品のSPD運用と同様だが、払出しの準備作業はSPD業者ではなく事務職員が回収した物品カードをもとに倉庫で印刷物を準備し、配送のみ週3回SPD業者に依頼した。

三つ目は、外来における一般消耗品の物品管理の一元化である。外来ではこれまで各診療科で物品管理を行っていたが、それぞれの場所に在庫することにより過剰在庫の原因となっていた。そこで、外来で使用する全ての一般消耗品及び印刷物を、外来の中央に位置する内科外来の一箇所に集約し請求業務の効率化を図った。

### 【結 果】

一週間の物品請求及び収納業務に費やす時間を比較した。SPD運用導入前は、病棟では平均43.6分/週であったが導入後は平均2.0分/週となった。外来では、導入前は収納業務を一人の看護助手が行っていたため135分/週かかっていたが、導入後は印刷物の収納業務のみとなったため5分/週程度となった。この取り組みで生みだされた時間によって、外来では看護助手が在宅療養患者の備品の準備や高齢者の検査案内などの業務にあてることができるようになり、それにより看護師が本来業務に専念する時間が増えた。また、事務職員（施設調度課）の発注・払出し準備業務に費やす時間も、導入前は毎週定期請求された一般消耗品をそれぞれの卸売業者に発注し、払出し準備に8.5時間/週かかっていたのに対し、導入後は2.5時間/週と短縮された。

導入2カ月後に、7病棟・外来13診療科の看護師長及び看護師を対象に院内物流の業務改善アンケート調査を実施した。アンケート調査の結果、「請求伝票を書く頻度が少なくなった」との回答が95.0%、「在庫確認の時間及び手間が省けた」が100%、「物品管理に関する業務量が減り、本来業務に回すことができるようになった」が95.0%、「物品管理が効率よく行わ

れている」が90.0%など、以前に比べて物品管理が効率よく行われているという意見が多く聞かれた。

コストの面ではSPD導入前に病院側で価格交渉を行い、また適正在庫で運用した結果、対前年比で削減率マイナス15%、年間に換算すると約50万円の経費削減となった。

### 【おわりに】

今回の取り組みでは、「質の高い医療の実現と、効率的な業務運営」を目指し看護師と事務職員が協働・連携し物品管理業務の効率化を図ることができた。特に、外来ではこの取り組みによって過剰在庫が減少し、日常業務の効率性も向上した。この取り組みにより以前よりも看護師が患者と向き合う時間が多くなり質の高い医療を提供する環境づくりに繋がった。

今後は、さらに多職種間で連携し業務の効率化を図り、質の高い医療の提供をしていく必要があると考える。

### 参 考 文 献

- 1) 村上浩司 横山英典他：一般消耗品のSPDシステム化への取り組み. 日本農村医学会雑誌56-2.103P.2007
- 2) 山根哲郎：SPDは病院経営にどんな影響をもたらしたか？経営者の立場から. 日本医療マージメント学会雑誌12.P138.2011
- 3) 谷田一久：SPDの過去・現在・未来. 日本医療マージメント学会雑誌12.P138.2011